

## 国会委員会が令和3年度総会を開催



6月14日午後4時より衆議院第一議員会館国際会議室において、世界連邦日本国会委員会の令和3年度(2021年度)総会が行われた。事務総長の中川正春衆議院議員の司会で始まり、衛藤征士郎会長より開会の挨拶があった。



衛藤征士郎会長

第1部の総会議事で、まず衛藤会長より役員人事の提案が行われた。顧問に山口那津男氏(参・公明)、副会長に武見敬三氏(参・自民)と佐藤茂樹氏(衆・公明)、常任理事に山川百合子氏(衆・立憲)と小林正夫氏(参・国民)を加え、他は昨年に引き続き全員留任となった。前年度活動報告・決算、今年度活動計画案と予算案について塩浜事務局長から説明があり、全て原案通り可決された。

第2部では谷本真邦・国会委員会事務局次長(兼・国連学術評議会事務局長)をモデレーターとして、外国の大使等と世界連邦日本国会委員会の所属議員により、感染症・世界の貧困・人権等について議論した。

国会議員から各党を代表して伊吹文明

顧問(衆・自民)、福山哲郎副会長(参・立憲)と阿部知子常任理事(衆・立憲)、井上義久副会長(衆・公明)、鈴木宗男元国務大臣・元外務委員長(参・維新)、笠井亮副事務総長(衆・

共産)。さらに左藤章氏(衆・自民)、猪口邦子氏(参・自民)、森山浩行氏(衆・立憲)も発言した。他に柴山昌彦氏(衆・自民)、山田賢司氏(衆・自民)、福島瑞穂氏(参・社民)、上田清司氏(参・無所属)も出席した。

国家の安全を保障する意味での平和だけでなく一人ひとりの安全を保障する意味での平和をも考えるべきこと、かつて1兆円以上あったODAが半減しており、日本の国力に見合った貢献を図るべきであるなど、さまざまな発言がなされた。

外務省総合外交政策局参事官・政策企画担当大使の大鶴哲也氏からも一言挨拶があった。その中で衆議院・参議院で行われた決議について「真摯に受け止めている」との言葉があった。

ヴァルマ駐日インド大使は、国連安保理拡大の必要性を語った。また、AI(人工知能)・ブロックチェーン(代表的なものにビットコイン)・宇宙空間など新たな科学技術による問題が生じていることを指摘し、テクノロジーに対する国際規範をつくらせていくことの必要性も強調した。

駐日EU大使の代

理として参加したローランド・ホネカンブ政治部長は、気候変動や感染症に対して日本が持つ技術力への期待を表明した。また、ミャンマーなど、人権と民主主義に対



ホネカンブEU駐日大使代理

して国連人権委員会などを通じて多国間で取り組むことの必要性も述べた。

江戸川区長の斉藤猛氏より、同区が東京23区でインド出身者が最も多いことに触れつつ、SDGs(持続可能な開発目標)の「誰一人取り残さない」の理念の通り、区として多様性・包摂性のある共生社会を目指しての取り組みが紹介された。そういう取り組みのためもあり、江戸川区は今年「SDGs未来都市」に認定されている。

W TOKYOの村上範義社長(日本最大のファッションイベント「東京ガールズコレクション」を主催)が国連でSDGsの理念をアピールした活動を紹介し、民間レベルでのマルチラテラリズム(多国間主義)を進めていきたいと述べた。

世界連邦文化教育推進協議会の穴野史生理事長は、同協議会が文化の面から世界連邦運動を進めていることを紹介し、「文化が違うからだめなんだではなく、違っていいから面白い」と互いを尊重し合うことの大切さを述べた。

グローバルガバナンス推進委員会の座長・長谷川祐弘氏(元国連事務総長特別代表)は、ここまでの意見をまとめたの総括的な話をした。

閉会にあたり、中川事務総長は、人権の

面で国会も流れが変わってきており、ミャンマー国軍によるクーデターを非難する決議が先日国会でなされたことを紹介し、すべての日程を終了した。

\*この総会の様子が「江戸川区民ニュース」に出ています。次の URL からご覧ください。

<https://www.news.city.edogawa.tokyo.jp/movie/detail.php?id=3532>

(塩浜 修)

## 「グローバル・ワクチン格差」とG20財務相会合に向けての国際署名の取組み

2021 年も半年を過ぎましたが、新型コロナウイルス(以下、コロナと略)の脅威はいぜんとして世界で吹き荒れています。が、この危機を経て世界的に税制や財政のあり方が変化しようとしています。その背景には、コロナ対策のために先進国は莫大な財政支出を行い、財政逼迫・危機に陥っている状況があります。米国バイデン政権は富裕層や大企業への増税を行い、インフラ・雇用、家庭への投資を増大させ、「大きな政府」を志向しています。

一方、途上国においてはコロナ以前から債務危機に陥っており、これにコロナ危機が重なって、たいへん厳しい状況となっています。そういう中で、ワクチンをはじめ途上国への医療等の支援は不可欠ですが、そのための資金は圧倒的に不足しています。世界の NGO などは今月の G20 財務相会合に向け「金融取引税」を要求する取組みを開始しています。

◇「グローバル・ワクチン格差」 途上国を取り残したままではコロナ終息は不可能

コロナ対策の強力な武器の一つがワクチンであり、ワクチン接種率が高いほど感染者が減少している実態があります。しかし、このワクチンが世界的に平等に行き渡っていません。以下をご覧ください。

<少なくとも1回以上接種した人の割合 5月末現在>

全世界：10%、米国・英国：50%以上、アフリカ：1%台、中米(ホンジュラス等)：2%台、アジア全体：5%台

こうした「グローバル・ワクチン格差」の原因について、次のことが挙げられます。第一に、先進国など高所得国によってワクチン囲い込みが行われていること。第二に、途上国に平等に治療薬やワクチン等を分配するために WHO が呼びかけ、主に欧州各国や日本が提唱国となって創設された「ACT アクセラレータ」、ならびにワクチン提供を行う「コバックス」が資金不足にあっ

て、十分にワクチンを確保できないということです。

そうした中で、6月のG7サミットで、主要7か国は途上国に8億7000万回分のワクチン提供を約束しました。しかし、WHOによればコロナ終息のために全世界で110億回分のワクチンが必要とされていますので、個別提供分を入れても2割にも満たないのです。

国際通貨基金(IMF)によれば、「来年半ばまでに世界の大半の人にワクチン接種をするのに必要なコストは500億ドル(約5兆5000億円)」(FT「ワクチン戦略誤った米欧」7月2日付日経新聞)と試算されています。各国が財政難でODA拠出が無理であるなら、国際連帯税など革新的な資金調達を考えるべきです。途上国を取り残したままではコロナ危機を収束できないことは明らかだからです。

◇7月G20財務大臣・中央銀行総裁会議へのエコノミスト・専門家の書簡

来る7月9～10日G20財務大臣・中央銀行総裁会議が伊ベネチアで開催されますが、これに対し途上国支援のための金融取引税を要求する国際エコノミスト・専門家署名活動が提起されています。

「金融取引税を直ちに導入し、経済の安定性を向上させるとともに、特に発展途上国において、医療、雇用、気候変動の影響に要する費用への公共投資支援を要請する」

“Urging the immediate introduction of Financial Transactions Taxes to improve economic stability and support public investment, particularly in developing countries, to pay for healthcare, jobs and the costs of climate impacts” というのがそれで、国際連帯税の一種である金融取引税(FTT)をG20財務相に要求するものです。

署名内容(要旨)は次の通りです。

①今回のCOVID-19危機では、富裕層の

国々でも大きな困難を経験したが、貧困層の国々の多くは、健康危機が発生する以前から深刻な債務不履行に陥っていた。そして現在はいっそう危機的な経済状況にあり、債務の返済と国民への医療提供の間で生死を分ける選択を迫られている。

②このような切実な状況に対応するため、私たちは、世界で最も裕福なセクターに目を向け、これまで十分に課税されてこなかった株式、債券、デリバティブ(金融派生商品)、外国為替などの金融取引に対して包括的な課税を行い、追加の歳入を確保することを強く求める。

③G20諸国のうち9カ国(アルゼンチン、ブラジル、中国、フランス、インド、イタリア、南アフリカ、英国、米国)では、すでに限定的なFTTが導入されており、主に株式取引に対して非常に低い税率が設定されている。

④私たちは、FTTを導入していない国は直ちに導入し、FTTを導入している国は税率を上げ、課税対象を他の資産にまで拡大することを提案する。そうすることで、年間1,000億ドル規模の追加収入を得ることができる。そのうちの少なくとも50%は、発展途上国の保健、教育、将来のパンデミックへの備えの強化に充て、残りの50%は、国内で最も困っている人々、特に雇用の保護と提供のための支援に充てるべきです。

\*全文は、こちらをご覧ください(英文)。  
<http://isl-forum.jp/wp-content/uploads/2021/07/Economists.Finance-Experts-FTT-letter.-2021.pdf>

日本からも10人のエコノミスト・専門家が署名に参加する予定です。

この取組みはイギリスの大手新聞「ガーディアン」7月8日号で紹介されました。

(グローバル連帯税フォーラム 田中 徹二)

# ミャンマー問題第2弾 バーグナー国連事務総長特使来日、世界連邦日本国会委員会幹部らと会談



5月26日から28日の3日間、クリスティーン・シュレイナー・バーグナー国連事務総長特使閣下（ミャンマー担当）が、ミャンマー問題解決のためのASEAN諸国外遊からジュネーブへの帰途、来日をした。来日中、世界連邦日本国会委員会の幹部でミャンマー関係の議員連盟会長などの関係各位と会談した。

バーグナー特使は、駐独大使などを歴任したスイス人外交官で、特に駐タイ大使時代の2010年にタイで発生した暴動では、対立する両者の仲介役として力を発揮した経験から、この役職に任命されたという。

筆者は特使の来日に際し、イトー特使補佐官や国連本部をはじめとする国連側、日本政府側（外務省など）、特使の母国スイスの在京大使館など、関係各所と連絡をとりながら、各方面の会談の調整をさせていただいた。特に今回は短期日程の来日、かつコロナ禍のなかで隔離期間免除の特別措置による入国ということで、感染予防対策はもちろん、面談予定者以外の一般の方との接触は完全に避けなければならないなど、様々な政府のガイドラインを遵守することが必要であったので、なかなか調整がたいへんであった。

まず来日当日、小関微笑子氏（世界連邦日本宗教委員会事務局、今年度の赤松賞受賞者）のご尽力によって、明治神宮内の、明治天皇が昭憲皇太后のために建てられたというお茶室にて休息をとりつつ、来日中のスケジュールの打ち合わせを行い、その後は、明治神宮外苑内にある京都芸術

大学東京キャンパス特別室にて、国連や外交に影響のある国連OBの方々との会談をした。そこでは、日本人国連事務総長特別代表第一号である明石康氏、日本人二人目の特別代表である長谷川祐弘世界連邦日本国会委員会有識者諮問機関座長、日本人三人目の特別代表の山本忠通大使、さらには元国連事務次長・国連（日本政府常駐代表部特命全権）大使を務められた大島賢三大使や、丹羽貴大京都芸術大学副学長に私も加わり会談をした。またこの会議では、元国連大使で現国連学会理事長の神余隆博大使、昨年まで国連大使を務められていた星野俊也大使もリモートで参加された。またキャンパス内にて、NHKの単独インタビューも受けた（5月29日NHK「週刊まるわかりニュース」で放映）。

翌日27日、バーグナー特使は国会を訪問し、衆議院の特別室で会談を行なった。国会議員からは世界連邦日本国会委員会（世連国会委）の衛藤征士郎会長をはじめ、「ミャンマーの民主化を支援する議員連盟」会長でもある中川正春世連国会委事務総長、「日本ミャンマー友好議員連盟」会長でもある逢沢一郎世連国会委副会長が参加。またミャンマーは仏教国であることから、宗教者にもできることがあるとして、日本宗教連盟理事長で世界仏教連盟執行理事でもある戸松義晴師、田中朋清世界連邦日本宗教委員会事務局長らも加わった。

会談後は、明石康氏が役員をしている赤坂アークヒルズのクラブのご協力で特設会場を設置していただき、明石氏をはじめ国連関係者と再び会談をしたり、ミャンマー国民和解担当日本政府代表でもある日本財団の笹川陽平会長らとも面会されるなど、様々なスケジュールをこなされた。

来日最終日の28日には、外国人特派員クラブにて記者会見をし、外務省にて茂木

敏充外務大臣をはじめ、外交当局関係者と会談をされた。



バーグナー国連事務総長特使と茂木外務大臣

バーグナー特使は、長年スイスの外交官として活躍されていたため、多言語話者であるが、特に幼少期に日本での滞在歴もあるため、ときおり流暢な日本語も披露された。会談では、それぞれ、日本側の参加者から「ミャンマー問題に関するバーグナー特使の尽力」に敬意が表され、「日本によるミャンマー国軍（Tatmadaw）への働きかけ、ASEANやG7との連携、国連機関を通じたミャンマー国民への人道支援の実施などの取り組み」について説明がなされた。バーグナー特使は、ミャンマー情勢で日本が果たしている重要な役割や取り組みを高く評価するとともに、訪日前に訪れたタイでのASEAN各国とのやり取り、クーデター発生以降の国連の取り組みについて説明され、「ミャンマーにおける事態打開に向けた日本の支援と知見の提供」を希望された。いずれの会合でも「国軍による市民への弾圧が続くミャンマー情勢の打開に向け、諸アクターの取り組みについて、今後も緊密に連携していくこと」で一致した。また国軍などの様々な情報を得ることもできた。そしてバーグナー特使をはじめとする関係各位は、大変有意義な来日であったと感想を述べられた。

（谷本 真邦）

## 追悼 元国連事務次長 大島賢三氏 逝去

5月28日夜、元国連事務次長の大島賢三氏が、大動脈瘤乖離のための急性心不全によりご逝去された。

バーグナー国連事務総長特使閣下（ミヤ

ンマー担当）来日時の一連の会談終了後、同じ28日にミャンマーや国際政治の専門家を交え、今回の特使来日を振り返りつつ、今後のミャンマーについてどういう動きを

取るべきかを話し合うオンライン会議を行なった。その会議で大島賢三大使が発言中に倒れられた。筆者は、その会議のホストをつとめていたため、急遽、大島大使の



画面とマイクを切っ  
てご自宅にお電話し  
たが、つながらず、  
奥様によってすぐ発  
見されたものの、す  
でに息はなく、救急  
車で運ばれ蘇生措置  
がなされたが、そのま  
ま帰らぬ人となって  
しまった。

大島大使は世界連邦の会員ではないが、  
十数年以上にわたって、お付き合いを  
していただいた。国連をはじめ外交には大変慎

重で厳しい面もお持ちであったが、「(当時  
の外交官試験制度により東大を中退して  
外務省に入省されたので) 高卒で国連事  
務次長になったのは自分だけだよ」とユー  
モアを交えて話すなど、気さくな面もあ  
った。とても可愛がっていただき、尊敬申  
上げていただいただけに、大変残念な思  
いでいっぱいである。また、特に大島大  
使は、ここ数年、ロヒンギャ問題に取  
り組まれていたため、今回のミャンマ  
ー問題では何度もご相談させていただ  
き、さらに特使来日にあたっては、お  
亡くなりになる前日までの三

日間にわたってお会いしており、倒れ  
られた会議もオンラインではあるがご一  
緒だったので、一層ショックであった。  
個人的に悲しいだけでなく、世界的に  
著名な日本人外交官として、また国  
連関係の重鎮として、まだまだ活躍  
していただきたかっただけに、大島  
大使のご逝去は日本や国際社会にと  
って大きな損失であると思う。謹  
んで大島大使のご冥福をお祈りする。

(谷本 真邦)

## 赤松賞 贈呈式



第 50 回赤松賞贈呈式が 2021 年 6 月  
29 日(火)に参議院議員会館で行われ  
ました。本来であれば定例総会での授  
与式となりますが、今年度は新型ウ  
イルス感染拡大の影響により総会が  
オンラインでの開催となり、緊急事  
態宣言解除後の贈呈式となりました。

第 50 回の赤松賞受賞者・小関微笑子(こ

せきえみこ) 氏に日下部理事長から赤松常  
子顕彰会の表彰盾と副賞 10 万円が授  
与されました。

小関氏は、昭和 48 年(1973 年)より  
世界連邦日本宗教委員会の事務局で  
実務の中心人物として活躍されてい  
ます。贈呈式後は、48 年間世界連  
邦運動に携わってこられたからこそ  
ご存じの、世界連邦の重鎮の方々の  
エピソードや体験談を共有いただき  
、世界連邦運動を通じた女性の活  
躍や貢献など、日下部理事長との  
対談も弾むものとなりました。小関  
氏は、現在は一般社団法人・日本  
国際文化協会の実務の中心を担  
い、常務理事として活動されてい  
ます。同協会では、外交官・留学  
生、企業研修生を対象に日本文化  
を実地に体験する講座を開催され  
ています。

当日の贈呈式では、明治 30 年創刊  
の宗教専門紙である中外日報社の  
取材も入り、7 月 7 日付けの紙面  
で贈呈式の模様をご紹介いた  
されました。

(川口 美貴)



赤松賞受賞者・小関微笑子氏(左)と日下部理事長

## 会員の声 1945 年生まれから見た“戦争と平和”(その 5) 金沢支部 平口 哲夫

前回「その 4」で記したように、高  
校生のとき『世界の歴史』(中央公  
論社)を全巻読んだ。この本は『1  
古代文明の発見』(1960 年発行)  
から『16 現代一人類の帰路』、『別  
巻 地図・年表・小辞典』(1962 年  
発行)まであり、当時、自宅で机に  
向かって勉強中の様子を撮った写  
真には、本棚に『世界の歴史』が  
並んでいるのが写っている。

このうち『15 ファシズムと第二  
次大戦』(1962 年発行)の「日華事  
変」には、「かの悪名高き南京残虐  
事件をひきおこした」という本文  
記述と、「南京大虐殺。刑場へ運ば  
れる中国人捕虜」というキャプ  
ション付きの写真が掲載されてい  
るが、その具体的内容については  
述べられていない。また、

この巻の付録「座談会・執筆者に  
きく 15」には、「日本軍も南京の  
虐殺なんかやったけれども、ドイ  
ツ人がユダヤ人を虐殺したような  
ああいう大がかりな民族のみな  
殺しということ、これはちょっと  
日本では考えていなかったと思  
いますね。」とか、「日本軍の虐殺  
というのは、僕は日華事変の  
ときに、だいたい戦場を従軍記  
者で歩いたけれども、激戦のあ  
ったところで、そのあとで虐殺  
をやるんだ。だから、わりあい  
かんたんに占領したところは  
なんにもしないのだよ。要する  
に、自分の友達が殺された、よ  
しやってやろうというような  
ことなんだ。それで南京の  
場合は相当な激戦で、損害も  
受けたわけだ。そしてあそこは  
首

都ではあるし、国際的に目だ  
ったということだな。それで大  
きく問題として取り上げられ  
たけれども、小さいところでは  
もっとひどいことをいくらでも  
やっているんだ。」などと語ら  
れているけれども、どのような  
虐殺があったかについての具  
体的な記述はない。

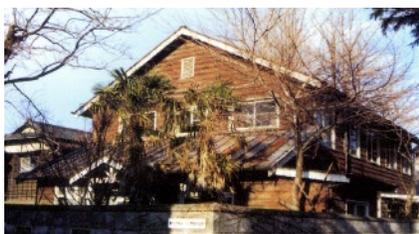
高校 2 年のときに受けた「世  
界史」の授業では、日本関係の  
ことは、教科書には記されてい  
ても、授業中に話題にされる  
ことは少なかった。また、高  
校 3 年のときに受けた「日本  
史」の授業では、担当の先生  
は、第二次大戦から戦後にか  
けての歴史を学ぶことも大切  
だが、残念ながら授業では  
そこまで話す時間的余裕が  
ないので、自学自

習しておいてほしいという主旨のことを述べておられた。

要するに、高校生の頃までは、第二次世界大戦で自国民が受けた被害については具体的に知ることができたが、他国民に与えた加害の実態については知らないままであった。加害の実態を知ようになるのは大学入学後のことである。

1965年(昭和40年)4月に東北大学文学部に入学、簡易アパートでの自炊生活を1ヶ月、簡易旅館での下宿生活を2ヶ月ほど経験してから東北大学基督教青年会館(漢水寮)に入寮した。この建物はアメリカ生まれのウィリアム・メレル・ヴォーリズ氏とヴォーリズ建築事務所の松井寛治氏の共同設計、ならびに竹中工務店東京支店の工事請負により1935年(昭和10年)12月に完成した。私が入寮した当時の住所表示は、仙台市上杉山三丁目7番8号であった。会館建設の直接のきっかけは、当時、東北帝国大学の哲学第二講座(古代中世哲学)担当だった石原謙教授が「東北帝大のキリスト者学生のために寄宿舎を建てたい」という意向を弟子に漏らしたことによる。石原先生は、1940年(昭和15年)12月に東京女子大学学長に就任(～1948年)、1973年(昭和48年)に文化勲章を受章しておられる。第二次大戦後の1946年(昭和21年)に会館は米軍施設として接收されるが、1952年(昭和27年)に返還され、改築工事が行われた。1990年(平成2年)、八木山の仙台市太白区大崎町(おとおやまち)8番1号に会館を新築移転した。現在は東北大学に限らず、仙台市内の男女学生を対象として寮生募集を行なっている。

下記掲載の画像は旧・東北大学基督教青年会館を写したものであり、『東北大学キリスト教青年会七十五年誌』(2003年発行)より転載した。この会館にまつわる「戦争と平和」関係の逸話については、次回「その6」でも述べる。



さて、私が入学した1965年から大学3年生となった1967までの間に刊行された『日本の歴史』(中央公論社)は、前述の『世界の歴史』と同じく父が購入したものであ

り、帰省のたびに仙台に持ち帰ったので、寮の自室に備え付けの本棚に全巻(本巻26冊+別巻5冊)が揃うことになった。その第25巻『太平洋戦争』(1967年発行)の「宣戦なき戦争」には、「南京占領と虐殺事件」の小見出しで2ページ分の記述があり、「南京事件の子女虐殺死体」のキャプションを添えた写真が挿入されている。その一部を以下に紹介する(漢数字はアラビア数字に変換、行替は省略)。

“南京城にたいする攻撃は、12月10日から開始され、13日には日本軍の手中におちた。国民政府は漢口に逃げのびていた。そしてその日から、日本兵は捕虜の虐殺をはじめた。当時、旅団長として攻撃を指揮した佐々木到一(とういち)は、つぎのように書いている。「(13日)午後2時ごろ概して掃討をおわって背後を安全にし、部隊をまとめつつ前進、和平門にいたる。その後俘虜ぞくぞく投降し来たり、数千に達す、激昂せる兵は上官の制止をきかばこそ、片はしより殺戮する。多数戦友の流血と10日間の辛惨をかえりみれば、兵隊ならずとも『皆やっつてしまえ』といいたくなる。白米はもはや一粒もなく、城内にはあるだろうが、俘虜に食わせるものを持ち合わせなんか我軍には無い筈だった。(略)(14日)城内にのこった住民はおそらく10万内外であろう。ほとんど細民ばかりである。しかしてその中に多数の敗残兵が混入していることは、当然であると思われる。(略)敗残兵といえども、尚(なお)部落山間に潜伏して狙撃をつづけるものがいた。したがって抵抗するもの、従順の態度を失するものは、容赦なく即座に殺戮した。終日、各所に銃声がきこえた。太平門外の外濠が死骸でうずめられてゆく」(『南京後略記』『昭和戦争文学全集』別巻所収)。その後も、みさかきもなく一般民衆にたいする虐殺がつづくのであり、15日の夜だけで2万人が殺されたといわれる。ドイツ人を責任者として南京につくられた国際救済委員会は、4万2千人が虐殺されたと推計し、そのほか、南京進撃の途上で30万人の中国民が殺されたと見積もられている。このニュースは世界に大々的に報道されたが、日本人は、戦後の東京裁判で追及されるまで、この事件を知らないでいた。”

私は教養課程を含む学部4年間を寮生として過ごし、修士課程2年間は文学部のある片平丁に隣接した米ケ袋で間借り生活、博士課程に進んだ1971年(昭和46年)4月から主事として2年間寮生活、大学院

最後の1年間は米ケ袋での間借り生活に戻った。寮では朝日新聞を購読していたので、1971年8月から12月にかけて全40回にわたって同紙に掲載された、本多勝一氏による「中国の旅」のルポルタージュを読んで『日本の歴史』の記述を上回る大きなショックを受けた。

このルポルタージュについては、記事に合わない写真が掲載されているなどの批判がある。しかし、たとえ一部に不適切な箇所があっても、記事全体としては、著者が依拠していない様々な傍証も多々あるので、事実無根とみなすことはできない。

虐殺された被害者数に諸説があり、確定しがたいことから、「南京大虐殺」とは称せず、「南京事件」、「南京虐殺」などと称することも通用している。しかし、たとえばベトナム戦争中の1968年3月16日にアメリカ陸軍の1小隊が南ベトナムのソンミ村の1集落(人口507人)を襲撃し、無抵抗の村民504人(男149人、妊婦を含む女183人、乳幼児を含む子供173人)を無差別に殺害した事件を「ソンミ村虐殺事件」と称するのと同列に扱うには、「南京虐殺事件」は規模が大きすぎるので、「南京大虐殺」という呼称が不適当だとは思えない。

なお、1990年代から2000年代にかけて読んだ関連文献にジョン・ラーベ著『南京の真実』(講談社1997年発行)、南京事件調査研究会編『南京大虐殺否定論13のウソ』(柏書房1999年発行)、ジョシュア・A・フォーゲル著『歴史学の中での南京大虐殺』(柏書房2000年発行)などがある。自国に都合が悪いからといって「あったこと」を「なかったこと」にしようとするほど、これでもかという反証が次つぎと提示されることになる。自国が犯した誤りを指摘して歴史の教訓とすることを「反日」、「自虐」呼ばわりするのは筋違いの批判である。

ただし、歴史教育においては、生徒の年齢に応じた配慮が必要であり、なんでもあからさまに教えればよいというものではない。たとえば基督教のバイブルには旧約聖書(The Old Testament)と新約聖書(The New Testament)があり、このうち旧約聖書はユダヤ民族の歴史書でもあるから、日本語の「聖書」という語感とは違って、残虐なことも「ふしだら」なことも、いろいろ記されている。そのいろいろなことを、教会学校やミッションスクールで、あからさまに教えているわけではない。

(つづく)

# 暑中お見舞い申し上げます。



今後とも世界連邦運動をよろしく願いたします。

令和三年 盛夏

<p><b>世界連邦・北海道</b> 代表 松藤日出男 副代表 日色無人 事務局長 押野善彦 次長 坂崎邦江</p>	<p><b>NPO法人 神戸平和研究所</b> 理事長 柚 浩二</p>	<p>世界連邦運動協会会長代行 <b>中野 寛成</b> twitter @nakanokansei</p>	<p><b>世界連邦近畿協議会</b> 会長 三宅 光雄 事務局長 高畦 孝一</p>	<p>副会長・理事長 <b>日下部 禧代子</b></p> <p>世界連邦推進日本協議会会長 世界連邦運動協会会長 第76・77代内閣総理大臣</p>	<p><b>海部 俊樹</b></p>
<p><b>世界連邦運動協会</b> <b>埼玉県支部</b></p>	<p><b>世界連邦運動協会 愛善京都支部長</b> 小佐々 晴夫</p>	<p><b>世界連邦運動協会広島支部</b> 本部副会長・支部長 城 忠彰 理事長 神川 正紀 副理事長 河本 浩一 副支部長 藤井 正一 副支部長・事務局長 森下 峯子</p>	<p><b>世界連邦運動協会神戸支部</b> 支部長 池上 徹 事務局長 平岡 五城</p>	<p><b>世界連邦運動協会 関東愛善会支部</b></p> <p><b>京都・大阪府支部</b> 支部長 税所 貴一</p> <p>当支部では、今年も引き続き世界の恒久平和を築くために、大阪府内の小学校において、一人ひとりがこれからの世界平和について考える「出前・平和学習」を実施してまいります。 次世代を担う子どもたちのために！</p>	
<p><b>世界連邦日本国会委員会</b> 世界連邦日本国会委員会は、一昨年十二月二十日に創設七十周年を迎えました。 政府が世界連邦実現に向けて最大限の努力をするよう、国内外の同志の皆さんとともに働きかけて参ります。</p>	<p>コロナ禍のような、国境を超えた大災害に対するためにもWFMの創設を実現しましょう。</p> <p><b>世界連邦運動協会石川県連合会</b> 名誉会長 杉山 栄太郎 副会長 桑原 豊(会長代行) 副会長 上山 桂樹 理事長 平口 哲夫</p>	<p><b>大本・人類愛善会</b> <b>小林 龍雄</b></p>	<p>いま、一つの世界を 世界連邦宣言自治体全国協議会 会長 綾部市長 山崎善也</p>		

<p>世界連邦近畿フォーラム</p> <p><a href="http://www.serenbutu.jp/">http://www.serenbutu.jp/</a></p>	<p>世界連邦日本仏教徒協議会</p> <p>会長 長 叡南 覚範          理事長 可兒 光永          事務総長 水谷 栄寛</p>	<p>綾部世界連邦運動協会</p> <p>会長 鹿子木 且夫</p>	<p>大阪愛善会支部</p> <p>支部長 伊藤 忠茂</p>	<p>愛媛県 松山市部          〃 新居浜支部          高知県 高知支部          徳島県 徳島支部          香川県 香川支部</p>	<p>世界連邦運動協会          四国ブロック協議会</p>
<p>〒503-0321 岐阜県海津市三郷1980          海津市営バス海津羽島線 お千代保稻荷前バス停下車</p>	<p>商売繁盛・縁結び・合格祈願</p> <p>千代保稻荷神社</p>	<p>黒澤合同事務所</p> <p>司法書士 黒澤 功記          税理士 黒澤 功栄          東京都中野区中野四丁目一          電話 〇三―三三八八―九六三八</p>	<p>世界連邦運動協会 豊中支部</p> <p>支部長 星野 慎一</p>	<p>世界連邦21世紀フォーラム支部</p> <p>理事長 木戸 寛孝          副理事長 野田 武志          事務局 柴田 修</p>	<p>世界連邦本部・国際副理事長          人類共栄会会長</p> <p>三宅 光雄</p>
<p>世界連邦加古川支部長          鹿多 証道</p>	<p>世界連邦運動協会富士宮支部</p> <p>支部長 輿水 和男</p>	<p>世界連邦運動協会          武蔵野支部</p>	<p>有限会社 日本教育マネジメント</p> <p>代表取締役 宮崎 太</p>	<p>株式会社アキバ徽章販売          TEL 03-5491-5786</p> <p>株式会社          トーヨー TEL 03-6416-5595</p> <p>バッグ・メタル・カップ・トロフィー・楯・旗・記念品</p> <p>STOP          なぜか一番はじめにみでしよう          目を惹く作りに          目を広げませんか</p>	

あなたも世界連邦運動協会の会員になって一緒に活動してみませんか

入会希望の方は、郵送かFAXまたはEメールにて、住所・氏名・電話番号・メールアドレスを本部事務局へお知らせください。またEメールでお申し込みの場合は、件名に『入会申し込み』と明記してお送りください。



WORLD  
FEDERALIST MOVEMENT  
OF JAPAN

世界連邦運動協会 本部事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂7-2-17 赤坂中央マンション303

電話 (03) 6438-9442 FAX (03) 6438-9443

E-mail info@wfmjapan.org

普通会員年額5,000円 維持会員年額10,000円 賛助会員年額15,000円

# 第50回世界連邦推進全国小・中学生 ポスター・作文コンクール募集要綱

主催：世界連邦運動協会  
後援：文部科学省(予定)・世界連邦宣言自治体全国協議会

## ◇目的

次代を担う小中学生が平和の尊さと人類の一員としての意識を深めることによって、“人間みな 家族”“世界はひとつ”の精神を培い、世界連邦について理解を深め、世界平和の実現をめざすようになることを目的とします。

## ◇概要

1. 世界連邦運動協会の支部・支部連合会・各宣言自治体を単位とした地区ごとに募集します。また、インターネットを通して全国の小中学生によびかけます。
2. それぞれの地区にて審査および展示会を開催し、各地区における優秀作品の表彰を行います。
3. 地区での優秀作品は、本部でさらに審査の上、展示、全国表彰されます。
4. 応募作品は原則として返却しません。応募する前にポスターのデジカメ写真や、作文をコピーするなど各自保管して下さい。著作権は主催団体に属します。

## ◇応募作品の規定

〔ポスター〕 大きさ B3版(364mm×515mm)もしくは四つ切り  
画用紙サイズ(392mm×542mm)  
ポスターカラー、水彩、クレヨン、はり絵、ソフトペン、その他画材自由

〔作文〕 小学校児童 400字詰原稿用紙2枚以内(厳守)  
中学生生徒 400字詰原稿用紙4枚以内(厳守)  
※作文は薄くて読みづらい原稿は審査できませんので、濃い鉛筆で記入するよう  
ご指導ください。

〔明記する事項〕 制作年(○年○月・第50回)  
応募単位(個人・学校・支部・その他)  
生徒氏名(ふりがな必須)、性別、学年  
学校名(○○市立等詳しく)、住所、TEL

## ◇テーマ

「世界はひとつ」「人類みな家族」「地球はみんなのもの」「みんな友達」「世界連邦をつくろう」「戦争をなくすために」「地球に恒久平和を」「地球環境の保全」「かけがえない地球」「環境と平和」「私たちの地球を守ろう」「One World」など、平和や環境問題と世界連邦、あるいはこれらの趣旨にかなうテーマ。独創性あるテーマやモチーフを期待しております。

## ◇募集期間

2021年7月1日～9月30日  
(地区の事情により若干変更されます)

## ◇展 示

地区表彰式・展示 2021年10月～12月  
全国表彰式・展示 2022年2月予定

## ◇表 彰

地区表彰  
入 賞 (ポスター・作文とも)若干名(全国審査該当)  
佳 作 (ポスター・作文とも)若干名

## 全国表彰

文部科学大臣賞(ポスター・作文とも)各1名  
特 賞 (ポスター・作文とも)各3名  
湯川スミ賞 (ポスター・作文とも)各1名  
入 賞 (ポスター・作文とも)各7名  
佳 作 (ポスター・作文とも)各5名程度  
※上記に加えて50回を記念する賞も企画しております。

※新型コロナウイルスの感染状況により全国表彰式・展示は中止になる可能性もございますのでご了承ください。また各支部におかれましては新型コロナウイルス対策に配慮の上、実施いただきますようお願いいたします。

〔問合せ先〕 世界連邦運動協会

E-mail : takeshi.noda@wfmjapan.com  
〒107-0052  
東京都港区赤坂7-2-17赤坂中央マンション303  
電話:03-6438-9442 FAX:03-6438-9443  
<http://www.wfmjapan.org/>

## 本部と支部の主な動き

註：コロナ感染拡大の影響で変更になる可能性があります。

6月26日 三鷹支部総会

8月2日～16日 綾部世界連邦運動協会 原爆ポスター展

8月27日 世界連邦運動協会第一回執行理事会

### 編集後記

☆赤松賞贈呈式で日下部理事長や受賞された小関氏のお話をうかがって、女性の立場から見た世界連邦運動の歩みや活動などをこれから誌面でご紹介できればと思いました。(川口) ☆「江戸川区民ニュース」では国会委員会の本年度総会に加え、昨年度総会や世界連邦ユースとの提携も動画で紹介。もちろん江戸川区にスポットが当てられているが、世界連邦を報道してくれるのはありがたい。(塩浜) ☆オリンピズムの根本原則は、平和主義に立脚しているのに、国威発揚や商業主義によって酷く歪められたことがコロナ禍によって露呈された感がある。オリンピックがコロナ禍の犠牲者を増やす結果になりませんように。(平口) ☆台風でないにもかかわらず全国各地で異常な豪雨に見舞われるニュースを見るにつけ、地球規模での取り組みを人類は真剣に考える時期にあると痛感します。被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。(野田) ☆講義などで学生と交流していると、国際という言葉がSNSの普及により国家間に限らず個人間の話題でも使われることが多い。世界市民がつながる世界連邦主義は古くからあるが、新時代の思想でもあると改めて感じる。(谷本)

編集委員会 / 委員長：川口美貴 副委員長：塩浜修・平口哲夫 委員：野田武志・谷本真邦